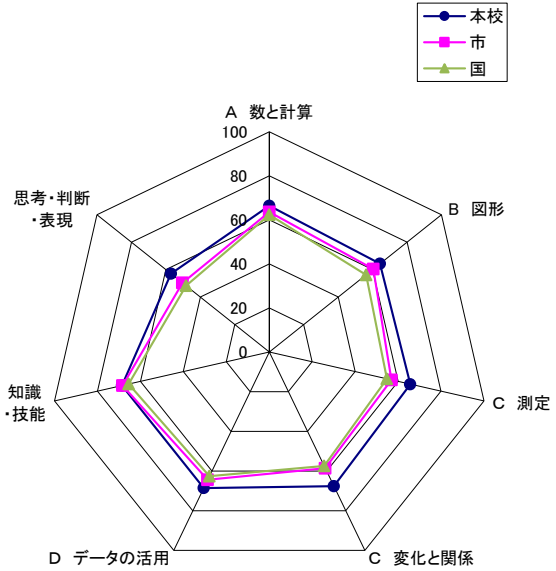


宇都宮市立東小学校第6学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【算数】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と計算	66.4	63.6	62.3
	B 図形	64.3	60.4	56.2
	C 測定	65.7	56.9	54.8
	C 変化と関係	67.6	58.6	57.5
	D データの活用	68.6	64.4	62.6
観点	知識・技能	68.6	68.3	65.5
	思考・判断・表現	57.1	50.4	48.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と計算	平均正答率は66.4%であり、全国の平均を4.1ポイント上回っている。 ○分数の加法について、共通する単位分数を見だし、加法と被加法が、共通する単位分数の幾つ分かを数や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、正答率が31.4%で全国の平均を8.4ポイント上回っている。 ●異分母の分数の加法の計算をすることができるかどうかをみる問題では、正答率が71.4%で全国の平均を9.9ポイント下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・分数の基礎的な知識を再確認して取り組むとともに、異分母の分数の様々な計算問題に触れる活動を充実させる。 ・数直線から読み取って分数で表す問題への苦手意識がみられたため、数直線や図を活用する機会を増やし、解き方を説明できるよう指導していく。 ・記述式の無回答率が平均と比べても大幅に上回っていた為、長文や複雑な問題文の中から重要なキーワードを探し出す活動や問われている問題を明確にする活動を通して、読解力を身につけられるように指導していく。
B 図形	平均正答率は64.3%であり、全国の平均を8.1ポイント上回っている。 ○基本図形に分割することができる図形の面積の求め方を、式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、正答率が51.4%で全国の平均を14.4ポイント上回っている。 ●角の大きさについて理解しているかどうかをみる問題では、正答率が77.1%で全国の平均をやや下回っている。	・図形や角の性質について復習するとともに、AIDリルなどを活用しながら繰り返し取り組んでいけるよう支援していく。 ・記述式問題では、どの図形にどの公式が必要なのか、対角線を引いたらどんな図形ができるのかを実際に書き込んで考える習慣が身につくよう支援していく。 ・文章の中から解き方のヒントとなるキーワードを見つける活動を普段から取り組ませることで長文問題に慣れさせていく。
C 測定	平均正答率は65.7%であり、全国の平均を10.9ポイント上回っている。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、問題を解決するために必要な数量を見だし、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる問題では、正答率が65.7%で全国の平均を17ポイント上回っている。 ○はかりの目盛りを読むことができるかどうかをみる問題では、正答率が65.7%で全国の平均を4.8ポイント上回っている。	・無回答率が0%だったことから、問題に進んで粘り強く取り組もうとする力が育っている。 ・問題文が長く複雑になることで、問題を解決するために何が足りないのか想像して解くことが難しくなっている。求めたい答えをよく確認して必要な値や式を探し出して解き方の見通しを立てるなど、長文問題の学習を積み重ねていく。 ・はかりの目盛りに限らず、様々な目盛りの読み方、単位の見方を実際に計量器など使いながら復習する。
C 変化と関係	平均正答率は67.6%であり、全国の平均を10.1ポイント上回っている。 ○伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出すことができるかどうかをみる問題では、正答率が91.4%で全国の平均を8.6ポイント上回っている。 ○「10%増量」の意味を解釈し、「増量後の量」が「増量前の量」の何倍になっているかを表すことができるかどうかをみる問題では、正答率が45.7%で全国の平均を4.8ポイント上回っている。	・伴って変わる二つの数量の関係に着目し、必要な数量を見出す問題はおおむねできている。 ・基礎は理解しているが、自分の考えを表現する問題になると正答率が下がる。解き方の見通しを立てることや、図や式を使った解き方について話し合う活動を通して、自分の考えを表現する力が身につくよう指導していく。 ・「%」の意味や使い方を復習し、応用問題に取り組む活動を充実させる。
D データの活用	平均正答率は68.6%であり、全国の平均を6ポイント上回っている。 ○簡単な二次元の表から、条件に合った項目を選ぶことができるかどうかをみる問題では、正答率が80.0%で全国の平均を8.4ポイント上回っている。 ●棒グラフから、項目間の関係を読み取るることができるかどうかをみる問題では、正答率が68.6%で全国の平均を10.1ポイント下回っている。	・基礎的な表やグラフの読み取りや計算の正答率が低い為、AIDリルや簡単な問題を用意して復習させるとともに、それらを用いた応用問題に取り組む機会を増やす。 ・データの特徴を捉えて考える際に、ICTを積極的に活用してデータを読み取る力や自分の考えを表現する力を育成する。